

令和7年度 洛友会東京支部総会

令和7年6月22日(日)
於 KKR ホテル東京/Web 会議

議事次第

- 開会の辞
- 支部長挨拶
- [第一号議案] 令和6年度行事・活動報告
- [第二号議案] 令和6年度決算報告および監査報告
- [第三号議案] 令和7年度の役員／評議員／幹事
- 支部長退任の挨拶
(役員交代)
- 新支部長挨拶
- [第四号議案] 令和7年度行事・活動計画
- [第五号議案] 令和7年度予算計画
- [第六号議案] 米寿・喜寿のお祝い
- 閉会の辞

付録1: 洛友会東京支部会則【令和元年6月30日改正】

洛友会東京支部ホームページ <http://www.rakuyukai.org/tokyo>
洛友会東京支部メールアドレス webmaster@rakuyukai.org

(ご参考)

京都大学アラムナイホームページ <http://www.alumni.kyoto-u.ac.jp/>

1. 令和 6 年度行事・活動報告

1.1 支部総会, 講演会, 懇親会

令和 6 年 6 月 23 日(日)、東京支部総会、講演会および懇親会を学士会館にて開催しました。令和 5 年に新型コロナウイルス感染症の感染症法の分類が「5 類」となったことを受け、①現地参加を基本に、現地参加が難しい方に向けて②Microsoft 社 Teams による Web 会議を利用したオンライン参加とのハイブリッド形式で実施する方法を踏襲してハイブリッド開催といたしました。

当日の現地参加は 38 名、オンライン参加は 14 名で、議案についての意見を交わすことができ、盛会となりました。

【支部総会】

支部総会は午後 3 時より堀内総務幹事が司会を進行し、平川支部長による開会挨拶で始まりました。

まず、堀内総務幹事より令和 5 年度行事・活動報告、松ヶ谷会計幹事より決算報告が実施されました。活動報告では、会の活性化が重要であるとし、趣味の会の補助金拡大が案内されました。支部総会では国際電気通信連合 (ITU) 電気通信標準化局長に就任された尾上誠蔵様から標準化についての講演が、秋の講演会では連続起業家である千本倅生様から AI 時代の経営戦略についての講演が報告されました。いずれも現地開催と Web 会議を併用して開催されました。春の見学会は山岸久雄様にご協力をいただき、国立極地研究所にて、大気の観測、MU レーダー、南極の PANSY レーダーなどの大型レーダー、アスコアと隕石についてのご説明をいただきました。昼食をはさみ午後には昭和天皇記念館を訪問できました。活動は以前の様子を取り戻しつつある一方で、若手交流会が開催できなかった点が報告されました。また、趣味の会、拡大クラスなどのイベントにおいては活動を再開しつつも、継続性に課題がある会が散見される点が報告されました。京都大学同窓会東京支部連絡会が開催されなかった点が報告されました。課題への取り組み報告について、支出削減の取り組みが承認されました。決算報告では、会計監査の結果、収支状況が適切と判断された旨が報告され、承認されました。

次に、令和 6 年度役員として、支部長 角田恭之(S58)、副支部長 安藤隆朗(S59)、監事 田村俊之 (S60)、総務幹事 松ヶ谷篤史(H17)、庶務幹事 篠田健司(H16)、若手交流会幹事 堀内健介 (H16))の就任が承認されました。会計幹事は総会時点では調整中であることが説明されました。その後、平川前支部長から退任のご挨拶、角田新支部長から就任のご挨拶がありました。

平川前支部長からは、総務幹事の堀内様が手腕を発揮し、会が適切に運営されたというお言葉とともに退任のご挨拶をいただきました。

角田新支部長は、コロナ前と同じような運営ではなく、輪状とオンラインのハイブリッドが今後のスタンダードとなるというお考えと、若い世代の参加を促すための会員の交流の場を提供すると抱負を述べられました。

田村新監事は、藤江様、馬場様が支部長の際に幹事をしていたことを振り返られました。

続いて、令和 6 年度行事・活動計画と予算計画について松ヶ谷新総務幹事より説明。計画説明の中では、秋の講演会を 11 月に開催予定であること、春の見学会も3月に開催予定であることに触れられました。また、若手交流会を開催する点についても説明がありました。その他の活動計画についても趣味の会、拡大クラス会、幹事会、若手活性化施策、支出削減策に継続して取り組むこと等の説明がありました。また令和4年度から令和 6 年度までの時限付きで趣味の会・拡大クラス会への補助金が従来の 1 万円から 2 万円へと増額されていることが案内され、いずれの行事・活動計画も承認されました。

最後に、令和 5 年度に米寿を迎えられた三木亮爾様、喜田村 滋様(昭和 35 年卒)、喜寿を迎えられた吉原進様、井上 道也様、三宅 潔様(昭和 45 年卒)のお名前が紹介され、拍手とともに会議参加者より祝意が評されました。



平川前支部長



角田新支部長

【講演会】

講演会では、京都大学工学研究科 電子工学専攻 量子機能工学講座 光材料物性工学分野 川上養一教授から臨場でご講演いただきました。講演のタイトルは「半導体 3次元構造を用いた発光ダイオードの開発-発光波長シンセサイザ-実現を目指して-」です。

川上先生は洛友会の副会長を担われておられます。大阪大学出身だが、京都大学の方々は温かいとおっしゃられていました。

川上教授は冒頭、ワイドギャップ半導体の特性について説明されました。素材にシリコンを使う場合、ギャップが1eVで赤外線の発光ができ、ダイヤモンドを使うと5eVまでギャップの拡大が可能、さらに新しい素材が探されていることが紹介されました。

青色発光ダイオードはワイドギャップ半導体のブレイクスルーであり、従来の白熱電球と比較し圧倒的な消費電力の低下が実現できたことが評価され多経緯があり、赤崎先生、天野先生ら京都大学出身の先生方が貢献された点に加えて、中村修二先生の基本特許裁判について藤田先生が法廷に呼ばれたエピソードが紹介されました。

LEDについてはギャップから発光する方式から、ヘテロ構造(溝を作って物理的に近づける方法)へ応用研究が進み、こちらも2000年にノーベル物理学賞の対象となり、応用研究も重要であることが説明されました。

素材については紫外線に対応する窒化ガリウム、赤外線に対応する窒化インジウムを混ぜていくと任意の波長で発行が可能となり、これらに少量のシリコンを添加するなどの試行錯誤が説明されました。パワー半導体の分野では松波先生がご尽力されたSiCが高品質になり、実用化されたエピソードが紹介されました。

ワイドギャップ半導体は、p型の不純物を添加してもn型とくっついてしまう自己補償効果というものがあり、そもそも半導体に適合する考え方なのか、常識への挑戦が必要とされた。これに対し川上教授はとにかく楽観的に実験を繰り返していくことが重要であったと語られた。具体的には水素とマグネシウムの結合がボトルネックであったが、中村先生は500-600度で焼くと水素が飛んでいくと助言された。いわば自分は巨人の肩に乗る小人のようなもので先人の積み重ねた発見に基づいて何かを発見しているに過ぎないことを理解し、無邪気で楽天的な実験家になろうとメッセージを發された。

発光効率も90%程度まで実現されているが、これを100%に近づけるのが大学研究の役割であり、すべての波長で100%光らせ熱の出ない半導体を作ることが究極の目標であり、半導体の3次元構造を作り局所的な電流制御ができればシンセサイザのようなものも実現できるのではないかと考えておられ、現在その取り組みの佳境にあることが説明された。通信では可視光が使われ帯域確保のため多波長化が重要な意味を持つ。半導体の3次元構造を変えるとスペクトルも変えることができ蛍光体で補色しなくても白色発光ダイオードを作ることができたことが、川上教授の研究人生でベストな経験だったとのコメントがありました。

今後、バイオ、医療、ITはAIによりアルゴリズムが支配する世の中になっていく。医者も弁護士も権威が破壊される、コスパ至上主義が迫るなかで果たして人間が幸せになれるのかという不安の一方で、人生万事塞翁が馬、偶発性が重要であり、動かしがたい好奇心と呼び込む勇気を持つというメッセージで説明が締めくくられた。



現地会場の様子



川上教授 ご講演の様子

【懇親会】

17時からは昨年に続き懇親会を開きました。コロナ禍に支部の繰越金が蓄積したことから、再活性化のために昨年同様、今年度の懇親会費用は支部で負担しました。多彩な参加者が料理を囲み、久々の懇親会を楽しみました。

【報告】 総務幹事 松ヶ谷 篤史(H17年卒)

1.2 秋の講演会

令和6年11月20日(水)に秋の講演会を開催しました。本年は現地参加とWeb参加のハイブリッド開催としました。また、他支部の方々にも参加いただけるよう、本部から講演会の案内がありました。その結果、現地参加者は43名、オンライン参加者は28名で、盛況な講演会となりました。角田支部長が冒頭に挨拶し、講演者の黒橋様の略歴を紹介しました。

今回は、国立情報学研究所所長、京都大学特定教授である黒橋禎夫様から「AIはどのように急に賢くなったのか、これからどうなるのか」と題してご講演頂きました。黒橋様は、京都大学工学部電子工学科卒業された後、1994年同大学院工学研究科博士課程を卒業後、2006年4月より京都大学大学院情報学研究科教授に就任され、2023年4月より同特定教授および国立情報学研究所長を併任されました。2024年4月より国立情報学研究所内に大規模言語モデル研究開発センターを設置、全国の研究者と透明性・信頼性の高い日本語版LLMの構築を目指し研究開発を進めておられます。

冒頭 OpenAI が2022年11月に公開した大規模言語モデル(Large Language Model, LLM)に基づくチャットボットである ChatGPT について触れられ、自己教師あり学習(Self-supervised Learning)を行い、推論を行うことでチャットの出力を行う仕組みに触れられ、LLMの進化について、2014年から機械翻訳の着手法、その精緻化、エンコード、デコードの改良、パラメータの大規模化を経て chatGPT に至った歴史を説明されました。

「部長はうなぎです」という文章はシチュエーションによって適切な翻訳が求められる、いわゆる「うなぎ文」の事例を出され、文脈を理解する難しさについて説明されました。また、画像への対応や、検索システムとの接続などの応用についても開設されました。

課題としては、研究開発が一部の組織の寡占状態にあること、モデルの振る舞いがブラックボックスであるこ

と、日本語の理解・生成能力は英語に比べて劣ること、経済安全保障的な懸念が説明されました。特に国内の取り組みについてチャットプラットフォーム上で行われている LLM-jp という 1900 人規模の LLM 勉強会が紹介されました。2024 年度からは国立情報学研究所に LLM 研究開発センター(LLMC)が設置され、LLK-jp を主宰されています。LLMC では大規模コーパス、モデル構築、チューニング評価と多岐にわたる研究体制が敷かれています。LLMC と LLM-jp の連携により、学習データをすべてオープンにしたモデルとして世界最大のモデル学習を行われた成果が紹介されました。今後は透明性、信頼性、安全性の向上を目指すほか、虚偽出力(ハルシネーション)対策、LLM の原理解明・高度化を目指す目標が掲げられました。特に、印象的だったのは LLM の原理は解明されておらず、なぜある程度適切な出力が得られているかわからないまま、実用化が進んでいるとのこと。一方で、今後生成 AI を使わないという選択肢はもはやなく、データの質の向上、動画の利用、実世界の理解、ロボットなどへの物理的な対象への応用など、今後への期待が示されました。

講演会の後には懇親会を開催しました。黒橋教授、平川支部長を含む多くの方が参加し、諸先輩方をはじめ、幅広い年代の方々と最新の技術動向のご講演を振り返りながら、懇親を深めることができました。



講演会の様子(学士会館にて)



講演される黒橋教授様

[報告] 総務幹事 松ヶ谷 篤史(H17 年卒)

1.3 見学会

桜の開花がもうまもなくとなるなか、快晴に恵まれた3月26日(水)に春の見学会を開催いたしました。コロナ禍を経て開催した昨年に続き2年連続となりました。今回は神奈川県横須賀市にある電力中央研究所と横須賀軍港周辺を訪れ、14 名の方に参加いただきました。新宿西口を出発したバスは1度の小休止を経てスムーズに現地に到着しました。

スタッフの方に出迎えていただき、今回の見学会の準備及び対応に多大なご尽力をいただいた電力中央研究所の理事を務められている美濃由明様(S56卒)と、横須賀運営センターの木本所長に出迎えていただきました。

まず、電力中央研究所の概要についての説明を受けました。電力中央研究所が日本の電力グリッド技術の発展を支える重要な研究機関であることが強調されました。再生可能エネルギーの導入拡大に伴い、電力系統技術のさらなる向上が求められており、特に高電圧技術や電気関連の研究に加え、IoTを活用した技術革新にも力を入れています。横須賀運営センターでは、5つの研究本部が設けられており、多様な研究活動が展開されています。広大な敷地を活かした試験・研究環境が整備されており、電力会社や電機メーカーからの依頼試験も実施されているとのこと。

続いて、所内の見学となりました。超高圧インパルス試験施設では、セラミックだけでなくポリマーの碍子(がいし)の開発やスイッチング試験、落雷試験、劣化試験などが行われる施設も見せていただきました。これらの試験を通じて、電力設備の耐久性や安全性を評価し、より信頼性の高い電力供給システムの実現に貢献しているとのこと。

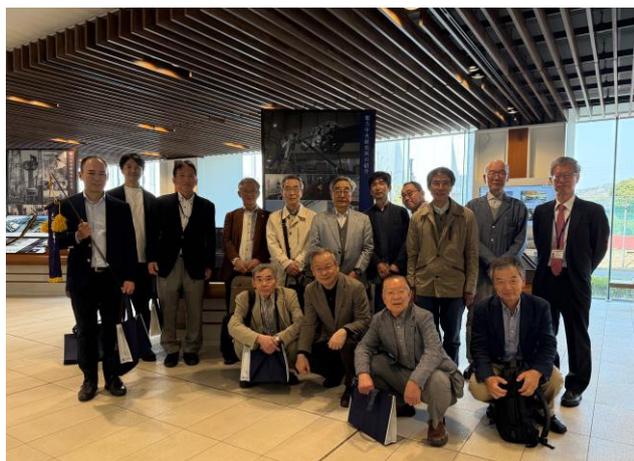
次に、IoT 技術の活用事例についての紹介を受けました。オフラインメーターの指示値読み取り技術を活用することで、記載ミスの防止や業務効率の向上が図られている事例や、映像解析技術を用いた道路橋や電柱の揺れ検出技術、コンクリート内の空隙発見のための打音検査技術など、インフラの安全性向上につながる様々な技術が紹介されました。さらに、定点検査により電柱の積雪検知や鳥の巣の形成監視を行うことでトラブルの未然防止が図られていることや、太陽光発電パネルの管理技術に関する課題としてカラスがパネルへ石を落とす問題への対策も講じられていることも紹介いただきました。

最後に、ヒートポンプ技術の紹介では、産業用ヒートポンプの開発についての説明を受けました。研究員の方が「あまり知られていないが」との前置きで東京電力とデンソーの共同開発により、家庭用給湯器としてフロンではなく炭酸ガスを利用する技術が確立されたことを説明いただきました。実用化が完了し現在は、複数のメーカーによる商品性能評価が中立的な機関として役割を担っているとのことでした。産業用ヒートポンプでは、も相応の規模のものが導入される動きがあり、お湯の供給だけでなく空調にも活用できる可能性があるとのことでした。試験施設は寒冷地も模擬できる大規模な空調施設を備えており、巨大なダクトのほか、迫力ある屋外施設を興味深く見ることができました。

今回の見学会を通じて、電力中央研究所における最先端の研究開発について理解を深めることができました。今後もこれらの技術革新が電力供給の安定化や環境負荷の軽減に寄与することが確信を持って感じられました。寒冷や降雨が続き、桜の開花が遅れる中、奇跡的に快晴に恵まれた3月27日(水)に春の見学会を開催いたしました。



快晴に恵まれました(新宿にて)



エントランスで集合写真

昼食をはさみ、午後は横須賀軍港めぐりを楽しみました。海上自衛隊および米国海軍の最新鋭の艦艇や潜水艦を間近で見ることができ、その迫力に圧倒されました。特に、世界最大級の原子力空母であるジョージ・ワシントンが停泊しており、その規模の大きさに驚くべきものでした。船内には約6,000人が乗船可能で、スターバックスをはじめとした各種施設も整えられており、まるでひとつの都市のような印象です。海上自衛隊のエリアでは、訓練用の標的艦も確認できました。標的艦は、実際の射撃訓練に使用される特殊な艦船で、防衛技術の向上に貢献するもので停泊中の姿は大変珍しいものとのことでした。見学中も天候にも恵まれ、波も穏やかで、船員の軽快な説明も相まって、参加者は非常に満足した様子でした。横須賀ならではの貴重な体験ができ、有意義な時間を過ごすことができました。

最後に、電力中央研究所理事の美濃由明様(S56卒)、および及び同研究所の皆様にご挨拶申し上げます。



停泊中の空母ジョージ・ワシントン



軍港めぐり終わりに記念撮影

[報告] 若手交流会幹事 堀内 健介(H16年卒)

1.4 若手交流会

令和元年度から企画・開催された院卒1年目を対象とした若手交流会は、コロナ禍によりしばらく開催できていませんでしたが、本年度は5年ぶりに企画することができました。過年度の院卒生らにも呼びかけし、数年ぶりの開催ながら26人が参加する盛会となりました。

今回は、2014年に起業し、いまや世界140の国・地域にIoT向けの通信回線を提供する、株式会社ソラコムの上級執行役員／Chief Engineering Officerである片山暁雄様に講演していただきました。

片山様の講演では、まずご自身の略歴や経歴について紹介がありました。IoTが普及するまでの道のりが長かったことや、現在グローバル企業として米国とロンドンに拠点を構えている点が語られました。IoTの基本的な概念として、「ネットワークに繋がることでデータをやり取りできる技術」であることを説明され、これにより様々なモノがデジタル化される可能性が広がっていると述べられました。例えば、部屋の片付けにおいてもIoTが普及することであらゆるものが管理され、近藤麻理恵さんが考案した片づけの方法である「こんまりメソッド」を活用したAIを開発することで、不要なものを捨てたり売ったりするシステムが実現できるかもしれないという興味深い視点を提供されました。しかし、こうしたシステムの実現は容易ではなく、IoTの活用には複数の技術が組み合わさる必要があると指摘されました。実際にIoTは「テクノロジーの総合格闘技」と称され、デバイス、ネットワーク、クラウド、データ、アプリケーション、ストレージ、セキュリティ、システム運用などの要素が連携してこそ成立するという認識が示されました。これに関連し、IoT活用の具体的な事例として、FUJITECの遠隔地エレベータ監視や三菱重工のプラント巡回防爆ロボット、BeeHeroのAIを活用した養蜂家支援、日本ガスのオンライン異常検知など、実際に導入されているユニークなソリューションが紹介されました。

また、IoTが普及する上での課題についても議論があり、多くのデバイスをどのように接続するか、認証や暗号化の方法、クラウドとの連携が重要な要素であることが強調されました。ソラコムのサービスでは、一般的な「モノ→インターネット→クラウド」ではなく、「モノ→クラウド→インターネット」の形でつながる特徴が紹介されました。これにより、KDDIの専用線を活用して通信管理、暗号化、データ保存などを実現し、APIを通じて顧客に柔軟な利用環境を提供している点が説明されました。さらに、最近リリースされたソラコム Flux についての紹介もありました。これは、データの流れをグラフィカルなソフト上で定義してサービスを構築できるソリューションであり、AIを活用した異常検知や、リアルタイムの状況対応が可能になります。具体的な事例として、倉庫内で防護服を着ていない人物を検知するシステムのデモが紹介され、カメラとAIを組み合わせるとリアルタイムにパトランプを点灯させるシミュレーションが行われました。このような新技術の活用により、企業の業務効率化や安全対策の強化が図れる点が強調されました。最後に、ソラコムの成長ストーリーが語られ、設立当初の試行錯誤や、開発のスピード感、事業拡大の背景が詳細に説明されました。企業文化の重要性や、スタートアップの挑戦における戦略的な意思決定の重要性が示され、聴講者に向けて「目指すものが明確であれば、スタートアップという選択肢も有効である」というメッセージが伝えられました。また、社外との交流を積極的に持つことの重要性も述べられました。

懇親会では、若手同士が積極的に会話を交わし、業界や技術についての情報交換が活発に行われました。役員や幹事も気軽に交流する場となり、世代を超えたコミュニケーションが生まれました。特に、IoTの可能性やソラコムの取り組みに関する議論が多く見られ、異なるバックグラウンドを持つ参加者同士が意見を交わすことで、新たなアイデアが生まれる場となりました。和やかな雰囲気の中で、参加者のネットワークが広がり、有意義な交流が行われました。



講演される片山様



講演を熱心に聞き入る参加者たち

[報告] 若手交流会幹事 堀内 健介(H16年卒)

1.5 趣味の会

名称	令和6年度幹事
囲碁会	向井 利典(S41 卒)、内海一成(H8 年卒)
麻雀会	石黒 公(S40 卒)
ゴルフ会	古澤 久具(S35 卒)、山澤 穰(S38 卒)、田崎 信(S44 卒)
洛謡会	村上 薫(S36 卒)
テニス会	田中 喜男(S44 卒)、成松 洋(S46 卒)

入会のご希望、またはお問い合わせがございましたら、以下のアドレスにメールをご送付ください。

- ・囲碁会 igo@rakuyukai.org
- ・麻雀会 mahjong@rakuyukai.org
- ・ゴルフ会 golf@rakuyukai.org
- ・洛謡会 utai@rakuyukai.org (宝生流、観世流の謡会)
- ・テニス会 tennis@rakuyukai.org

●囲碁会活動報告

幹事 向井 利典(S41 卒) 内海 一成(H8 卒)

令和6年度は、昨年度と変わらず、日本棋院本院(市ヶ谷)の一般対局場の貸席を会場として、3回開催しました。各回の開催日と参加者数は下記のとおりです。

◇第1回 令和6年6月30日(日曜日) 参加者 11名

◇第2回 令和6年12月1日(日曜日) 参加者 6名

◇第3回 令和7年3月30日(日曜日) 参加者 4名

なお、令和6年度の皆勤者は、喜多村さん(S36 卒)と、幹事の内海(H8 卒)の2名でした。

第2回、第3回の参加者が少ないのは、幹事(内海)の都合で日程調整が遅れたためです。令和7年度はメンバーの都合がよい日を選定できるように努めます。

また、これも幹事(内海)の都合で恐縮ですが、第2回、第3回では成績優秀者への賞品贈呈ができませんでしたので、こちらも改善に努めます。

良い話題をご紹介しますと、久々の新規参加者として、花原さん(R3 卒)が参加してくれました。洛友会の囲碁会に限らず世間一般で囲碁を打つ若者が減っているところですが、囲碁は生涯続けられる趣味ですので長く続けてもらえるとうれしいです。

以上

●麻雀会活動報告

幹事 石黒 公(S40 卒)

報告なし

以上

●ゴルフ会活動報告

幹事 田崎 信(S44 卒)

ゴルフ会は開催しませんでした。若い方も参加できるようにと土曜日開催で募集をしましたが残念ながら参加希望者は3名しか集まらず開催できませんでした。このままでは休会せざるを得ない状況になっています。

以上

●洛謡会活動報告

幹事 村上 薫(S36 卒)

謡会を年間3回実施しています。

- 1) 第174回洛謡会 令和6年8月2日(金) 於 目黒区勤労福祉会館
曲目: 花月(宝) 敦盛(観) 須磨源氏(宝) 葵上(観)

- 2) 第 175 回洛謡会 令和 6 年 12 月 5 日(金) 於 目黒区勤労福祉会館
 曲目: 鶉飼(宝) 雲雀山(観) 鳥追(宝) 善知鳥(観)
- 3) 第 176 回洛謡会 令和 7 年 3 月 21 日(木) 於 目黒区勤労福祉会館
 曲目: 嵐山(観) 杜若(宝) 箴(観) 鞍馬天狗(宝)

宝生流と観世流で毎回 2 曲ずつ謡っています。第 175 回は「鳥」、第 176 回は「花」に関する曲を選びました。曲により難しさもいろいろですが、能の舞台となった昔を偲びながら大声を出して、楽しんでおります。謡のご経験のある方がおられましたら是非ご参加ください。

昭和 44 年に始まる伝統ある古典芸能の会です。以前は謡曲と言えば紳士の教養でしたが、大先輩が次々と亡くなり寂しい限りです。火を消さぬよう続けてゆきたいと思っています。

以上

●テニス会活動報告

幹事 田中 喜男(S44 卒)、成松 洋(S46 卒)(文責)

洛友会東京支部テニス会は、開始より半世紀以上の間継続しています。昭和 50 年代初頭からほぼ毎月 1 回を目標としたペースで 週末あるいは祝祭日での例会を実施してきました。体を動かして楽しく汗をかくことを目標に継続しています。本年度は、猛暑や雨天といった天候の影響での中止が数回あり、また、令和 7 年に入ってからは抽選に連続して外れてしまい、年度が替わった 4 月まで開催が無かったのも異例の事態で、年間の開催回数が少し減ってしまったのは残念でした。

私達がプレーの拠点にしている場所は、首都高速道路東京インター(用賀)近くにある、砧公園や NHK 技術研究所に隣接している大蔵第二運動場です。毎回、テニスコート 1 面を 2 時間確保して、ダブルスのゲームを楽しんでいます。新規に最近参加された会員、また奥様同伴で参加されている会員もおられ、全員で和気あいあいと楽しくプレーをすることができています。

これからもテニス会を継続して会員諸氏の親睦と健康維持に貢献していきたいと願っています。少しでも体を動かすことに興味をお持ちの皆様、初心者の方も大歓迎ですし勿論腕に自信のある方も、ぜひ幹事までご一報くださるよう、お待ちしております。

回	開催予定／実施日			参加人数	開催場所
1	令和 6 年	4 月 14 日	(日)	7 名	世田谷区大蔵第二運動場
2		5 月 5 日	(日)	5 名	世田谷区大蔵第二運動場
3		5 月 19 日	(日)	5 名	世田谷区大蔵第二運動場
4		7 月 7 日	(日)	—	熱中症警戒アラート中止
5		7 月 14 日	(日)	—	雨天中止
6		8 月 11 日	(日)	—	熱中症警戒アラート中止
7		9 月 23 日	(月祝)	—	人数不足中止
8		10 月 6 日	(日)	6 名	世田谷区大蔵第二運動場
9		12 月 29 日	(日)	4 名	世田谷区大蔵第二運動場

以上

1. 6 拡大クラス会

名称	令和 6 年度 幹事
京極会 [S35～S39 卒]	藤江 恂治(S37)
洛粹会 [S40～S44 卒]	浜口 友一(S42)
洛談会 [S45～S49 卒]	成宮 憲一(S49)
洛笑会 [S50～S54 卒]	川原崎 雅敏(S50)
喜洛会 [S55～S59 卒]	平川 明(S57)
洛泡会 [S60～H1 卒]	菅谷 靖(H1)、田村 俊之(S60)
洛成会 [H2～H6 卒]	鎌田 照己(H3)

百万遍会 [H7～H11 卒]	山本 輝哉 (H10)
洛晶会 [H12～H16 卒]	堀内 健介 (H16)
洛楽会 [H17 卒～H21 卒]	松ヶ谷 篤史 (H17)

●京極会[S35～S39 卒]

幹事 藤江 恂治 (S37 卒)

京極会(昭和 35 年～39 年)ですが残念ながら 39 年の皆さんの参加がない状態で続いておりました。従いまして、幹事は各年次持ち回りが普通ですと 5 年毎にまわってくるのですが、京極会では 4 年に 1 回ということでした。会員の皆様の高齢化に伴い、年々参加者が減少してくることもあり、昨年度の京極会で何となくあと 1 年という雰囲気がありましたので、各幹事に提案し賛同を得て今回で活動を終了することとなりました。幸い毎年ご支給の補助金も少なくなっていましたので全額使用させていただきました。長い間ご支援をいただき有難うございました。

なお、37 年は京極会に名を借りて年次の集まりを怠っておりましたので、令和 7 年から改めて声をかけようと考えております。

以上

●洛粹会[S40～S44 卒]

幹事 志賀 正 (S43)

2024 年度洛粹会は 43 学年が担当となり、幹事団(志賀・関・廣川・松田・山本)で企画検討を行い今回は NTT 様が「IOWN」基盤で数々の革新的なプロジェクトを推進し国内外での技術的優位性を確立されている状況を統括責任者である NTT 代表取締役副社長 川添雄彦様からご講演を頂く機会を得ましたので以下のように開催しました

2024 年度洛粹会

○日時:2024 年 11 月 15 日金曜日

- 10 時 30 分 受付開始
- 11 時 00 分 講演会(質疑応答含め)
- 12 時 00 分 昼食・懇親会
- 13 時 00 分 打ち上げ

○場所:学士会館 302 号室

○講演:講演テーマ

新たな価値の創造とグローバルサステナブル社会の実現—IOWN—

講演者

NTT 代表取締役副社長 副社長執行役員
博士(情報学) 川添雄彦様

○参加費:5000 円

○参加者(敬称略) 22 名

- ・40 年 江川哲郎 田島 孝 三浦秀規 吉田忠則 石黒 公
- ・41 年 大橋 旦 織田莞二 福井敏明 藤林信也 森田浩三 山口浩保
- ・42 年 來山征士 塚田一幸 丸山昭男
- ・43 年 志賀 正 関 祥行 山本 武 廣川 正 松田晃一
- ・44 年 井上英也 田崎 信 森 和廣

以上

●洛談会[S45～S49 卒]

幹事 成宮 憲一 (S49)

2024 年 7 月 23 日(土用の丑の日の前日)に、5 年振りに洛談会を開催しました。

東京国立博物館で開催されていた「神護寺創建 1200 年記念特別展～空海と真言密教のはじまり～」を鑑賞した後、13 時から末広町にある鰻料理の老舗「うなぎ久保田」に 18 名が集まり懇談し、大いに盛り上がりしました。

最後に、来年度の開催を約束して閉会しました。

来年度の幹事は以下の 2 名です。

S45 卒 村山 浩一 h_r_muraya@ybb.ne.jp

S46 卒 高重 哲夫 taka8tera@gmail.com



以上

●洛笑会[S50～S54 卒]

幹事 川原崎 雅敏(S50 年卒)

令和 6 年度洛笑会を以下の通り実施しました。

日程:2025 年 3 月 12 日(水)19:00-21:00

会場:NEC 芝倶楽部 (JR 田町駅三田口 徒歩 3 分)3 階洋室 303 号室

次第:懇親会(各自 1 分程度で近況報告)

会費:5 千円

出席者(計 16 名)敬称略:

S50 年卒 貝篤、川原崎雅敏、熊谷博、菅野宏、竹原司

S51 年卒 辻本雅彦

S52 年卒 西野信、得井慶昌、山尾泰、渡辺正信

S53 年卒 河村修、桐山純一、芹澤善積、福田和彦

S54 年卒 伊藤八大、矢永雅治



会計報告

収入: 前回繰越金 24,519 円 + 会費 80,000 円 = 104,519 円

支出: 会費 80,000 円 + キャンセル料(50%) 3,636 円 + キャンセル料(100%) 8,000 円 = 91,636 円

繰越金: 12,858 円

次回幹事は辻本雅彦さん(S51 年卒)です。

以上

●喜洛会[S55～S59卒]

幹事 平川 明(S57)

出席者 9名

会場 神田 廣豊香楼

雰囲気 恩師の思い出、研究室での思い出、近況報告など、話が尽きませんでした。1時間半の飲み放題コースでしたが、その後も続き、たっぷり3時間半、楽しい会話を堪能できました。来年の再会を約束して、解散しました。



以上

●洛泡会[S60～H1 卒]

幹事 菅谷 靖(H1)、田村俊之(S60)

令和7年3月7日(金)、田町駅前の会場にて、クラス会を開催しました。

今年も昨年と同じく19名の参加があり、5学年が一堂に会して楽しいひとときを過ごしました。

参加者それぞれが近況報告を行い、交流を深める中で、来年度の再会を約束して盛会のうちに終了しました。

令和7年度の幹事は、田村俊之(S60)と中村眞(S61)の二名が担当します。



以上

●洛成会[H2～H6 卒]

幹事 鎌田 照己(H3 卒)

令和6年度は残念ながら日程が合わず、メールでの交流となりました。令和7年度は6月に幹事間の交流会を実施予定で、今後も継続的に交流していきたいと思います。

以上

●百万遍会[H7～H11 卒]

幹事 山本 輝哉(H10 卒)

拡大クラス会[H7～H11 卒] 百万遍会 令和6年度は2025年5月15日に開催いたしました。場所は品川駅近辺の「全席完全個室居酒屋 匠 品川店」にて開催となり、参加者は7名でした。

今回も初参加となり面識がない方もいましたが、昔話と現在の仕事の状況に関して話合えずに意気投合することができ、にぎやかな会になりました。普段、卒業生同士で会うことも中々ないため、拡大クラス会は旧交を深めるよい機会であるという意見をいただきました。

本会の中で直近の洛友会東京支部の活動内容を共有及び次回の総会の案内を実施しました。今後も本会を継続することで、会員の洛友会への参加が増えることを図っていきたいと考えます。また、今回は一部の各学年参加がなかったため、次回に向けて全学年が参加できるよう実施方法と内容を検討していく(開催や活動にSNSを利用することを検討していく)。

次回幹事は山本 輝哉(H10 卒)が引き続き行方。



以上

●洛晶会[H12～H16 卒]

幹事 堀内 健介(H16)

2年ぶりに「洛晶会」を新橋で開催しました。「洛晶会」という名前は、生成AIが急速に流行し始めた時期に、まだ誤った返答が多かった ChatGPT が卒業年代としての「2000年」というテーマに対して提案した「晶」の字を用いて名付けられました(注:「晶」の字と「2000年」は関係がありません)。この2年間で生成AIは実用レベルまで進化し、その技術の発展スピードには目を見張るものがあると盛り上がりました。また、それぞれ近況を報告し、ドバイ、アメリカ、スペインなどへの出張を通じて、日本の勢いが徐々に弱まりつつあることを肌で感じていると意見を交わしました。日本の現状を踏まえ、自分たちができることは何かについて、真剣に議論を重ねました。

洛晶会は大人数での開催が本格化できておらず、3月に広く声掛けをして開催を試みましたが、多忙な時期ともあって日程調整が不調となっていました。令和7年度は働き盛りである洛晶会の年代が集まりやすいであろう、10月頃の開催を予定しています。本報告を御覧頂いたH12～16卒の方は、案内が届きましたら積極的な参加をよろしくお願いいたします。

幹事は引き続き堀内(H16卒)が務めます。



以上

●洛楽会[H17～H21 卒]

幹事 松ヶ谷 篤史(H17)

新たな拡大クラス会を令和6年度から開始することとしました。令和7年4月16日、四ツ谷しんみち通りよいよにて3名の小規模にて初回を開催しております。それぞれの自己紹介を済ませたのち東京支部の情報共有を行い、最重要課題の会の命名について話し合ったところ、参加者の手島邦彦さん(H19 卒)に挙げていただいた”洛楽会”に名称が決定しました。世代が近く、共通のバックグラウンドをもつ同窓の集まりは良いものです。現状、洛友会東京支部幹事の現役、後任世代で構成されておりますので、今後の円滑な東京支部運営にも有意義な会となりました。

来期も幹事は松ヶ谷(matsugatani@gmail.com)にて務めさせていただき、5年にまたがる会への拡大を目指します。お声掛けされた皆様、ふるってご参加ください。



以上

1.7 幹事会

日時： 令和6年5月19日 10:00～12:00

場所： Web 会議

議題：

1. 令和5年度行事・活動報告

各幹事から活動報告がありました。支部総会、秋の講演会に加え、コロナ禍を経て春の見学会が開催されたことが報告されました。若手交流会については開催がありませんでした。趣味の会では全般的に参加人数が減少傾向にあり、新しい参加者の獲得が課題です。また、拡大クラス会の活動報告がされました。

2. 令和5年度決算報告

堀内総務幹事からの決算報告と、安藤監事からの監査報告があり、決算内容が承認されました。支出では、秋の講演会で学士会館を確保できず割引のきかない別会場を使用したことで予算オーバーとなったことが報告されました。令和7年1月から建て替えのため休館となる学士会館の改修に伴い、向こう数年の会場選定が課題であることが共有されました。

3. 令和6年度役員／評議員／幹事

堀内総務幹事より説明があり、次期役員／評議員／幹事が承認されました。

4. 令和6年度行事・活動計画

堀内総務幹事から、前年度よりも活動を活性化する方針であることが説明され、行事・活動内容が承認されました。支部総会、秋の講演会、春の見学会に加え若手交流会も改めて開催することを確認しました。

5. 令和6年度予算計画

堀内総務幹事から計画が説明されました。繰越金の活用として、支部活性化のため春の見学会と若手交流会に積極的に予算を充てることが承認されました。また総会の連絡手段としての葉書について、メールの普及にともない、これまで葉書で連絡していた方以上に対象を負やない方針とすることが提案され、承認されました。

1.8 京都大学同窓会東京支部連絡会

例年、在京の同窓会で開催されていた連絡会議および交流会ですが、新型コロナウイルスの影響を受け、開催が見送られていました。本年度も開催はありませんでした。

[報告] 支部長 角田 恭之(S58)

1.9 課題への取り組み報告

(1) 登録会員(連絡先が把握できている会員)数向上について

会員に各種情報を届けるためのメールアドレスの把握・現行化のため、以下の取り組みを継続しています。

- ① 機会あるごとに、洛友会 HP における会員情報変更手順を記載することで、連絡先の現行化を依頼。
- ② 昨年に引き続き秋の講演会、春の見学会を開催することで、会員への案内頻度を増やし当支部の活動活性化をアピールした。

今後も支部役員・学年幹事・拡大クラス会幹事が連携し、当会との関係が疎遠になりがちな(特に、若手)会員に対し、当支部主催のイベントはもちろんのこと、京都大学全学同窓会等が開催する各種イベントの案内等をより多くの会員に届けることとします。

(2) 若手活性化施策について

以前は、卒業して間もない若手会員に、洛友会東京支部の存在そのもの、そして、その活動を認識してもらうため、東京支部エリアに就職した院卒1年目を対象とした歓迎会を開催していました。ここ数年はコロナ禍で開催できませんでしたが、昨年度はこれまで開催できなかった年次を含む形で対象を拡大し、若手交流会を開催できました。

(3) 全学同窓会活動について

例年、東京支部連絡会議に参加し、全学同窓会活動との連携をはかっておりますが、令和6年度も開催されませんでした。

(4) 支出削減について

令和6年度は、ほぼ予算どおりの支出となりました。繰越金を利用し種々の拡大施策を実施しました。一定の効果を得られたことから、令和7年度は予算案の見直しを行います。(後述)

1.10 洛友会会報への寄稿

今年度は、東京支部からは下記の洛友会会報へご寄稿いただきました。

- 第285号(令和6年7月) 巻頭言 平川 明様(S57 卒、前東京支部長)

1.11 ホームページの不調について

東京支部ではホームページ(<https://www.rakuyukai.org/tokyo/>)を運用し総会資料等を公開しています。しかし、委託業者が令和6年12月上旬に事前の通告なく事業を停止したため、ホームページが閲覧できなくなる事態に陥りました。令和7年3月下旬に新たな運用業者を選定し復旧しましたが、この間、ご不便をおかけし申し訳ございませんでした。また、趣味の会のメーリングリストも同様の理由で利用できない期間がありました。支部活動に影響が生じたことをご報告します。

なお、本部のTOPページ、各支部のページについては運営を東京支部にて代行しておりましたが、現時点で復旧していません。

3. 令和7年度の役員／評議員／幹事

●役員

	令和7年度新役員(案)	令和6年度役員
支部長	安藤 隆朗(S59) 農業・食品産業技術総合研究機構	角田 恭之(S58) (株)NTT データ・ウイズ
副支部長	田村 俊之(S60) KDDI(株)	安藤 隆朗(S59) 農業・食品産業技術総合研究機構
監事	中村 眞(S61) 古河ネットワークソリューション(株)	田村 俊之(S60) KDDI(株)
総務幹事	須磨 隆富(H18) NTT データ(株)	松ヶ谷 篤史(H17) KDDI(株)
会計幹事	手島 邦彦(H19) NTT ドコモ(株)	須磨 隆富(H18) NTT データ(株)
庶務幹事	前原 慶子(H19) KDDI(株)	篠田 健司(H16) JAXA
若手交流会幹事	松ヶ谷 篤史(H17) KDDI(株)	堀内 健介(H16) 東芝デジタルソリューションズ(株)

●学年幹事

卒年	令和7年度 学年幹事	(参考) 令和6年度 学年幹事
S24	舟田 正男	←
S25	山田 昭二郎	←
S26	青山 善次	←
S30	葉原 耕平	←
S31	鍵山 圭一郎	←
S35	榊 博史	←
S36	村上 薫	←
S37	藤江 恂治	←
S38	関 清三	←
S40	田島 孝	←
S41	森田 浩三	←
S42	浜口 友一	←
S43	志賀 正	←
S44	井上 英也	←
S45	逢坂 福信	←
S46	高重 哲夫	←
S47	杉山 守	←
S48	蓮池 和夫	←
S49	成宮 憲一	←
S50	川原崎 雅敏	←
S51	辻本 雅彦	←
S52	古川 清二	←
S53	伊東 康之	←
S54	伊藤 八大	←
S55	尾上 誠蔵	←
S56	岡田 英俊	←
S57	平川 明	←
S58	柴沼 敏郎	←
S59	藤田 善弘	←
S60	田村 俊之	←
S61	中村 眞	←
S62	大矢 智之	←
S63	水本 政宏	←

H1	菅谷 靖	←
H2	中原 智勇	←
H3	鎌田 照己	←
H4	的場 直人	←
H5	松野 知愛	←
H6	橋本 航介	(未定) R2年度まで松村 善洋
H7	古屋 裕規	←
H8	森川 大補	←
H9	福原 忠行	←
H10	山本 輝哉	←
H11	竹田 真二	←
H12	保坂 幸治	←
H13	西尾 真貴	←
H14	佐々木 純	R4年度まで辻野 孝輔
H15	南川 敦宣	←
H16	瓶井 悠	←
H17	松ヶ谷 篤史	←
H18	須磨 隆富	←
H19	手島 邦彦	←
H20	(未定)	(未定) R3年度まで大石 裕司
H21	小林 陽太郎	←
H22	(未定)	(未定) R3年度まで本間 寛明
H23	(未定)	(未定) R3年度まで北浦 宏祐
H24	下井 智裕	←
H25	松藤 浩平	←
H26	新谷 翔吾	←
H27	小熊 優太	←
H28	岡本 浩尚	←
H29	(未定)	R4年度まで福原 真←
H30	(未定)	←
H31	(未定)	←

R2	(未定)	←
R3	(未定)	←

R4	福島 慶大	
R5	武田 和樹	

●評議員

卒年	令和6年度 評議員	(参考) 令和5年度 評議員
S23	仲本 秀四郎	←
S30	荒木 襄 魚住 董	←
S31	近藤 光洋	←
S32	三橋 堯	←
S34	橋本 勉	橋本 勉 川本 幸雄
S35	西田 武彦 幸野 眞士 角 忠夫	←
S36	和田 昌美 前川 則夫	←
S37	竹居 敏夫 竹井 大輔 馬場 征彦 藤江 恂治	←
S38	伊吹 十之	←
S40	田島 孝	←
S41	向井 利典	←

S42	久樹 隆彦	←
S43	中野 貞彦 松田 晃一	←
S44	井上 英也	←
S45	塩見 正	←
S46	小澤 秀司	←
S47	遊佐 洋	←
S48	安田 豊	←
S49	成宮 憲一	←
S50	小森 光修 横川 文彦	←
S51	下村 寛士	←
S52	得井 慶昌	←
S53	伊東 康之	←
S54	伊藤 八大	←
S55	尾上 誠蔵	←
S56	北條 博史	←
S57	平川 明	←
S58	角田 恭之	

●趣味の会幹事

名称	令和7年度幹事	(参考)令和6年度幹事
囲碁会	向井 利典(S41卒)、内海 一成(H8卒)	←
麻雀会	石黒 公(S40卒)	←
ゴルフ会	田崎 信(S44卒)	←
洛謡会	村上 薫(S36卒)	←
テニス会	田中 喜男(S44卒)、成松 洋(S46卒)	山内 英樹(S44卒)、田中 喜男(S44卒) 成松 洋(S46卒)

●拡大クラス会幹事

名称	令和7年度幹事	(参考)令和6年度幹事
京極会[S35~S39卒]	廃止	村上 薫(S36)
洛粹会[S40~S44卒]	志賀 正(S43)	志賀 正(S43)
洛談会[S45~S49卒]	村山 浩一(S45) 高重 哲夫(S46)	成宮 憲一(S49)
洛笑会[S50~S54卒]	辻本 雅彦(S51)	川原崎 雅敏(S50)
喜洛会[S55~S59卒]	角田 恭之(S58)	平川 明(S57)
洛泡会[S60~H1卒]	田村 俊之(S60) 中村 眞(S61)	菅谷 靖(H1) 田村 俊之(S60)
洛成会[H2~H6卒]	鎌田 照己(H3)	鎌田 照己(H3)
百万遍会[H7~H11卒]	山本 輝哉(H10)	←
洛晶会[H12~H16卒]	堀内 健介(H16)	←
洛楽会[H17~H21卒]	松ヶ谷 篤史(H17)	←

付録1:洛友会東京支部会則【令和元年6月30日改正】

(名称)

第1条 本支部は洛友会東京支部と称する。

(事務所)

第2条 本支部事務所は総務幹事の所属勤務先またはそれに準ずるところとする。

(目的)

第3条 本支部は会員相互の親睦を図り、学術文化の知識向上を図ること、並びに京都大学電気系教室の発展に寄与することを目的とする。

(行事)

第4条 本支部は第3条の目的を達成するため次の行事を行う。

1. 見学会、旅行会、講演会等を開催する。
2. 拡大クラス会及び趣味の会を支援する。
3. 支部総会を年1回開催する。
4. 隔年の本部総会開催時は協力、支援する。
5. 本部による会員名簿の発行、広告募集に協力する。
6. 米寿および喜寿の会員に対し祝意を表す。
7. その他本支部の目的を達成するに必要な行事を行う。

(会員)

第5条 本支部の会員は以下の通りとする。

1. 会員

本支部は洛友会会員で原則として関東地区に居住する者で組織する。またその周辺に居住するもので本支部に入会を希望するものは幹事会の議を経て入会する事を歓迎する。

2. 行事への参加

会員は総会に出席してその議決権を行使することができる。また、本支部の主催する各種行事に積極的に参加ならびに協力し、本会則ならびに総会及び幹事会の決議を遵守し、本支部の発展ならびに会員相互の交流促進をはかる。

3. 会費

会員は、洛友会会則により定められた会費ならびに支部会費を、年度の初めに一括して本部に、その他本支部行事参加費等本支部で定めた費用を、その都度遅滞なく納入する。

(役員及び役員会)

第6条 本支部には次の役員を置く。

1. 役員

(1) 支部長 1名

本支部を代表し、会務を統括する。

(2) 副支部長 1名

支部長を補佐し、支部長不在のときはその会務を代行する。

(3) 総務幹事 1名

会務全般を処理する。

(4) 会計幹事 1名

総務幹事を補佐し、会計事務を処理する。

(5) 庶務幹事 1名

総務幹事を補佐し、ホームページ維持管理ほか幹事会で決議した特命事項を担当する。

(6) 監事 1名

会計を監査する。

(7) 若手交流会幹事 1名

若手交流会を処理する。

2. 役員を選任

(1) 支部長及び副支部長は本支部総会の議を経て選任する。

(2) 総務幹事、会計幹事、庶務幹事及び監事、若手交流会幹事は支部長が委嘱する。

3. 任期

役員は任期は1年とし、原則として再任は行わない。ただし、庶務幹事については再任を妨げない。

副支部長が翌年の支部長に就任すること及び会計幹事が翌年の総務幹事に就任すること総務幹事が翌年の若手交流会幹事に就任することが望ましい。役員は任期が満了した場合においても、後任者が就任するまではその職を継続する。

4. 役員会

役員は役員会を組織し、総会の付議事項を含め、本支部の目的達成のため重要事項を審議し幹事会に提案する。

(幹事及び幹事会)

第7条

1. 幹事会メンバー

幹事会メンバーは第6条で定められた役員及び幹事会で指名された評議員及び学年幹事ならびに趣味の会、拡大クラス会等ごとに選任された代表者各1名により構成され、毎年幹事会で確認の上登録する。

支部役員経験者を評議員に加えることを考慮する。

2. 任期

第6条で定められた役員を除き、幹事会メンバーの任期については特に定めない。

3. 幹事会の運営

幹事会は、原則年2回開催し、年度の支部活動方針ならびに活動の総括、総会の付議事項、その他必要な重要事項の審議を行い、承認する。議長は支部長が、書記ならびに事務局は総務幹事が、幹事会メンバーの賛同を得てこれに当る。

(総会)

第8条 総会は本支部の最高議決機関で、全会員で構成する。

1. 総会は原則として毎年6月に開催する

2. 総会は支部長が招集して、その議長となる。

3. 総会の招集は開催日の1ヶ月前までに議題、日時、開催場所等を記載した書面、ホームページ又は電子メールなどで通知する。

4. 議決は出席会員の過半数の賛成により決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(総会の付議事項)

第9条 総会の付議事項は次の通りとする。

(承認事項)

(1) 前年度の行事報告及び収支決算

(2) 当該年度の行事計画及び収支予算

(決議事項)

(1) 支部長、副支部長の選任

(2) 本支部会則の変更

(3) 本支部の解散及び残余財産の処分

(4) その他本支部活動に必要な重要事項

(総会の議事録)

第10条

1. 総会の議事録については、議事録を作成し、これを保存する。

2. 総会において議決された事項は、会員にホームページ、洛友会会報等にて通知する。

(経理)

第11条 本支部は支部会費、交付金、寄付金及び行事参加費をもって経理する。

(年度)

第12条 本支部の年度は4月1日に始まり3月31日に終わる。

(慶祝事)

第13条

1. 米寿(数え年88歳)及び喜寿(満77歳)を迎えられた方々に対し、総会にて会員より祝意を表す。

2. その他会員の特別の慶事に対しては幹事会の議を経て祝意ならびに記念品を贈呈する事が出来る。

(趣味の会活動)

第14条 本支部は、有志より活動申請に基づき幹事会の承認を受けて趣味の会を組織できる。趣味の会は、本支部にその活動状況を報告する。本支部は活動の補助金を出すことが出来る。

(拡大クラス会活動)

第15条 本支部は5年単位にて有志からの活動申請に基づき幹事会の承認を受けて拡大クラス会を組織できる。拡大クラス会は本支部にその活動状況を報告する。本支部は活動の補助金を出すことが出来る。また、5年単位での活動継続が困難となった場合は、幹事会の承認により、複数の拡大クラス会を統合して拡大クラス会活動を行うことができる。

(付則)

本支部会則は令和元年6月30日付にて施行する。